



45) 年、最後まで村に残っていた住民が平久保村に移住し、安良村は廃村となった。

安良村跡にあるこの御嶽は、村が廃された後も安良村関係者や平久保の人々によって信仰され、毎年旧暦 6 月にはプーリィ（豊年祭）が執り行われている。御嶽はイビ（神域）や拝殿、境内を取り囲む石積みも現存しており、ハスノハギリを中心とした御嶽林も良好な状態で残っている。安良村跡には、屋敷の石積みや建物の礎石も残されており、御嶽とともに廃村となった旧村落の歴史を知ることができる貴重な場所である。



事実上の廃村となった。

戦後の 1954（昭和 29）年、琉球政府計画移民により野底地区に入植した多良間島出身者達が、多良間島の「土原豊見親」の神霊を野底御嶽に勧請し、一角にイビ（神域）を建てて信仰していたが、そのようなことは良くないということで、信仰は途絶えたようである。

現在は、野底村に縁のある人々が信仰しており、近世八重山の廃村となった旧村落の変遷や民俗を知るうえで貴重な文化財である。